

1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>適正な学校規模を実現するための方策</p> <p>(ア)全県的視野での統廃合の必要性と可能性</p> <p>・統廃合以外の選択肢</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適正な学校規模として、学年4学級～8学級を考えると、普通高校が青森・弘前・八戸の三市には複数校、その他の市には1校、町・村には通学の利便性を考えながら適宜配置することとし、統廃合はやむをえないと考える。 ・ 高校が地域文化の拠点として役割を担ってきた、今そこにあるから、との理由でなく、現状を踏まえた上で、県全体から統廃合を含めた適正配置が必要と思う。設立したときの環境も時間の経過とともに変化しているので、全ての高校について、過去の経過に縛られるのではなく、改めて見直しが必要と思う。 <ol style="list-style-type: none"> 1 必然的に統廃合を実施しなければ、適正学級規模の議論との矛盾が発生する。 2 統廃合以外は、現状では校舎制しか考えられない。校舎制は後日議論することになっているが、交通が極端に不便なことや近隣に高校が存在しない地域があるとすれば議論する必要がある。 ・ 適正な学校規模を確保するため統廃合はやむを得ない。中高一貫教育の導入も視野に入れて行く事も必要。学校は地域の核なので、統廃合等難題と予想されるが、十分な話し合いを持って理解してもらい進める必要がある。 ・ 高校において、ある一定の教育レベルを維持するためには、入学倍率が1.2倍程度になることが望ましい。倍率のないところに学力の向上は望めない。全国と互するだけの学力をつけるためには、全入学の考え方を脱皮することが必要である。一定の倍率を維持するための工夫が必要である。 ・ 市部における普通高校の統廃合は大胆に行うべきだと考えます。既存の普通高校を存続させるという前提では生徒数の減少に対応する方策が見出せないと考えます。町村部における統廃合についても相当な必要性があると考えますが、実施した場合の在学する生徒の学校生活が合理的かつ効率よく送ることができるような方策を施さなくてはならないと考えます。例えば、登下校が精神的・肉体的・経済的に負担にならないようスクールバスなど活用できることや、部活動の際はそれぞれの種目や競技に応じて機能的で有意義に活動できる時間・場所・指導者を確保すること等が必要と思われれます。 	<p>教育水準や教育環境の維持向上を図るためには、ある程度の学校規模が必要であり、そのためには、統廃合もやむをえない。</p> <p>ただし、一律に統廃合するのではなく、地域の特性や教育の機会均等の観点に立ち計画を立てることが肝要である。特に郡部の場合、通学手段の確保(通学バス等)等を考える必要がある。</p>

1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>(イ)統廃合の進め方 ・統廃合による新しいタイプの高校の可能性 ・統廃合基準を設定するのか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校が地域社会に果たす役割、及び地域が学校に寄せる期待を理解しつつ、現状では思い切った統廃合もやむを得ない。 ・ 平成20年度以降、10年間の中卒者の減少見込を考えると、効果的教育環境を整える上からも、統廃合の必要性は不可欠に思われる。 ・ 各市町村の中学校卒業生の動態、及び全県的な交通体系を考え合わせ、公正に判断していく。この判断の上に統廃合基準はあると考える。新しいタイプの高校は、将来を展望し、プランや効果を慎重に検討し判断すべきである。 ・ 新しいタイプの高校は、財政面で無理と考えている。校舎建築費のみならず設備に多額の金額が必要である(職業高校の新タイプについて) ・ 普通科は、市部の中核となる受験校は残し、新設の定員に満たない普通高校は統合する。職業科、総合学科とも定員に満たない類似性のある学科・コースは一緒にするか、廃止を含め再考も必要ですし、地域の方々と十分に話し合い納得してもらおう。 ・ 中南地区にある尾上総合高校のような総合高校を他の地区に設置することも前向きに考えてはどうでしょう。 ・ 地域住民の理解を求めながら進めることは当然だが、統合の対象となる地域からの反発は容易に察せられる。理解を得るためには、一定の基準設定が必要。 ・ 農業高校は土地面積も必要だが、商業科は設備にあまりお金がかからないので、商業科を組み入れるのも可能と思われる。三本木農業高校も三沢商業が無い時は立派に機能していた実績もある。 ・ 統廃合の基準はあくまでもその地域の児童・生徒数に応じるべきではありますが、一つの地区の市部とその周辺の町村部の児童・生徒数の変位はきめ細かく分析する必要があると考えます。 	<p>現在の財政状況等から考えると、新設の学校設置は困難であると予想される。また新しいタイプの高校を新設した場合には、様々な困難やリスクが予想されることから、慎重に検討すべきである。</p> <p>さらに、中学生段階で将来の進路設計ができていない生徒は多くないことから、学科の多様化に疑問を感じるとの意見も見られた。</p> <p>以下の点が必要との意見もあった。</p> <p>単位制の導入や総合学科化を図ることをねらいとした再編統合</p> <p>特別支援教育を必要とする小規模校の設置</p> <p>ドロップアウトした生徒の受け皿の学校の設置</p> <p>統廃合の基準については、県民や地域住民の理解と納得を得るためにも何らかの設定が必要である。</p> <p>基準とすべき観点については、数年間の入学者選抜の志願倍率や募集定員に対する充足率、地元出身生徒の在籍率等を参考にすること、及び望ましい学級数の確保を基準とすること等である。</p>

1 県立高等学校の適正な学校規模・配置の在り方

検討課題	検討状況・方向性	青森県高等学校長協会の意見
<p>(ウ) 地区毎の学校配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職業学科については基本的に1学科1クラスを前提に考えていくべきだと思いますが、一つの地区で統合できる学科や再編によって複数学科をより少ない学科にできる場合は積極的に進めていくべきだと思います。 ・ 第2次実施計画にあるように統廃合への基準と道筋を、公開し地域社会の理解を得ていくことしかないと思います。 ・ 統廃合の結果、可能性があると思われる「新しいタイプの学校」というのを探ってみる必要がある。 ・ 総合学科と工業、農業、商業科を統合した新しいタイプの学校があってもよいのではないかと。統廃合基準を設定する必要がある。 ・ (ア)の普通科の配置及び現在の配置の状況を考慮して、職業学校・総合学科の配置が考えられる。 ・ 現状の6地区を、生徒数・適正な学級規模と普通科・職業科・総合学科の割合を3つを基準として議論するしかないのではないのでしょうか。 ・ 全県的視野での統廃合を進める場合、地区バランスは当然考慮すべきであろうが、その場合、従来の「6ブロック」という考え方を踏襲すべきかどうかの再検討を。 ・ 教育の機会均等の確保の観点からも、地区の事情による柔軟な学校配置があってよい。 ・ 各地区(特に都市部)において、高校の廃校を前提にした議論が必要と考えます。各校の校舎化や学級数減だけでは、長期的視野に立った場合の施策とはなりえないのではないのでしょうか。普通高校の理想的な学級数を6クラスと判断する立場から思い切った学校配置の見直しを行うべきだと思います。 	<p>通学区域が全県一区となったといえども、出来ることなら親元から通学できる範囲に普通高校、専門高校があることが望ましい。</p> <p>また、地区毎の特殊性を考慮しながら普通科、職業科、総合学科の占める割合の見直しが必要である。</p>